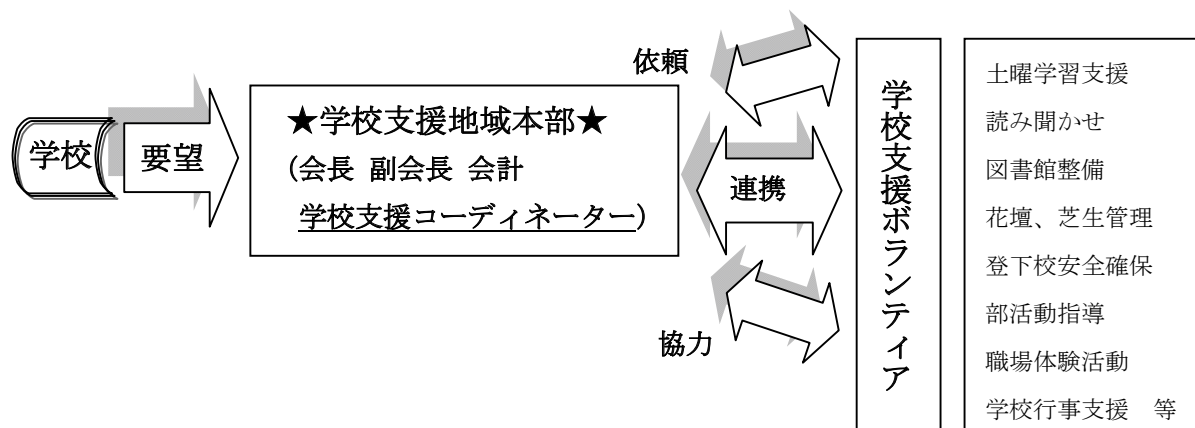


## ◆事業方針（計画等における位置づけ）

大田区教育委員会は、大田区基本構想に掲げる区の将来像の実現をめざすとともに、国が掲げる教育の目的・理念にのっとり、平成21年6月に教育目標を定めた。この教育目標を実現するために「おおた教育振興プラン」を策定し、このプランの「家庭・地域の教育力向上アクションプラン」の主な取組の一つとして学校支援地域本部事業が位置づけられている。

## ◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等含む）

学校の教育活動の一層の充実のため、地域全体で学校を支援する仕組みとして、区内の全区立小・中学校に学校支援地域本部（スクールサポートおおた）を設置している。学校支援地域本部には学校支援コーディネーターを置き、ボランティアとの連絡調整などを行う。補習教室等の学習支援、図書室の整理等の環境支援、地域の伝統・文化を学ぶ等の体験支援等、さまざまな活動を通して学校支援を行っている。



## ◆運営委員会

学校支援地域本部の運営方針の策定や支援の検討等を行う「大田区学校支援地域本部事業実行委員会」を組織している。

## ◆広報活動（パンフレット、HP活用、広報誌、報告書など）

- 大田区報に学校支援地域本部事業に関する記事を掲載予定。
- 学校支援地域本部、学校、教育委員会をつなぐ情報紙「スク・サポ通信」を発行（年2回）。
- 2年に1回、各校の取組みをまとめた大田区版『事例集』を発行。
- 学校支援地域本部とボランティア募集の2種類のリーフレットを作成。

## ◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

- 学校支援コーディネーター新任研修会
- コーディネータースキルアップ研修会（年2回）
- コーディネーター交流会 小学校 1回、中学校 1回実施
- その他、東京都主催のコーディネーター基礎研修等への参加を促し、活動へ反映させている。

## ◆成果

大田区では、平成21年度に学校支援地域本部事業がモデル校3校で始まり、平成25年度からは区内の区立小・中学校87校全校で実施されている。各校がさまざまな取組を行っており、平成29年度は、学校支援コーディネーターの活動延日数が22,232日、ボランティアの参加者数も55,096人となった。前年度に比べ着実に増加しており、地域による学校支援がより活発になっている。

## ◆課題・展望

各校の学校支援が充実するよう、引き続き研修やコーディネーター交流会を実施し、コーディネーターのスキルアップを図る。また、コーディネーター同士のネットワークをつくり、情報交換や情報共有をよりスムーズに行えるよう、場の提供等環境を整え、支援を行う。